



**Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム  
派遣（アルゼンチン）の記録  
テーマ：日系社会への理解促進と青年交流**

**1. プログラム概要**

【目的】日本の大学生・大学院生がアルゼンチンにおいて、日本と派遣国との友好関係を築き、それぞれの国の魅力を積極的に発信することを目的に実施しました。参加者は、日系社会への理解促進と青年交流をテーマにした視察や講義を受けるとともに、現地の日本語学校の学生や日系コミュニティとの交流を通じて、互いの文化の相違点や日系コミュニティの歩みについて理解を深めました。

【参加者】日本の大学生・大学院生 10名

【訪問地】アルゼンチン

**2. 日程**

■ 事前オリエンテーション（オンライン）

3月3日（金曜日） 【オリエンテーション】渡航前オリエンテーション、本プログラム事前説明  
【交流】自己紹介

■ 派遣プログラム

3月21日（火曜日） 成田国際空港より出国

3月22日（水曜日） エセイサ国際空港（ブエノスアイレス）よりアルゼンチンに入国  
【オリエンテーション】

3月23日（木曜日） 【表敬訪問】在アルゼンチン日本国大使館  
【視察】国立農牧技術院（INTA） 花卉研究所  
【視察】国立工業技術院（INTI）

3月24日（金曜日） 【視察】リーベル・プレートミュージアム、フランス広場、エル・アテネオ書店  
【交流】在アルゼンチン沖縄県人連合会

3月25日（土曜日） 【学校交流】日亜学院  
【視察】記憶の場 旧ESMA博物館

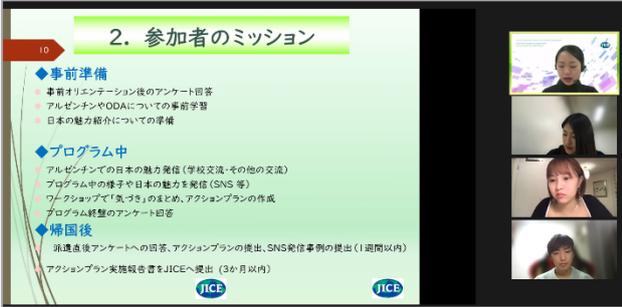
3月26日（日曜日） 【ワークショップ】報告会準備  
【視察】五月広場、サンテルモ地区

3月27日（月曜日） 【報告会】在アルゼンチン日本国大使館  
【視察】ボカ地区カミニート  
【表敬】アルゼンチン外務省

エセイサ国際空港（ブエノスアイレス）より出国

### 3. プログラム記録写真

#### 派遣前オリエンテーション

	
<p>3月3日【オリエンテーション】</p>	<p>3月3日【交流】自己紹介</p>

#### 派遣プログラム

	
<p>3月23日【表敬訪問】在アルゼンチン日本国大使館</p>	<p>3月23日【視察】国立農牧技術院（INTA）花卉研究所</p>
	
<p>3月23日【視察】国立工業技術院（INTI）</p>	<p>3月24日【視察】リーベル・プレートミュージアム</p>



3月24日【交流】在アルゼンチン沖縄県人連合会沖縄県人連合会



3月25日【学校交流】日亜学院



3月25日【視察】記憶の場 旧ESMA博物館



3月26日【ワークショップ】報告会準備



3月27日【報告会】



3月27日【表敬訪問】アルゼンチン外務省

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ 大学生

渡航前オリエンテーションでおおよそのスケジュールを知ることができて、具体的な滞在イメージを持つことができました。また、アルゼンチンへの渡航について注意点や重要なポイントを踏まえて伝えてくださったため、渡航の準備にとっても役立ちました。参加者全員との自己紹介を

する交流の時間があり、一緒に参加する人たちとプログラムの前に知り合うことができ安心しました。

◆ 大学生

事前オリエンテーションにて、派遣プログラムに参加する使命を再確認して、目的が果たせるように勉強など準備を進めていこうと思いました。また、参加者や運営されている方々のバックグラウンドや人柄を知ることができ、一体感を持って渡航に向けて準備を進めることができました。

◆ 大学生

日系人の方々との交流が最も興味深かったです。街中を軽く見たのみでは、スペインやイタリア系の人の国のように見えるアルゼンチンですが、日系人の方々とも交流できたため、国の多様性に迫ることができました。

◆ 大学生

軍事政権の崩壊から間もない国で現地の人々の声を聴けたのは貴重な経験だったと思います。日亜学院や日系の方々との話の糸口にもなりました。また、それぞれの交流や視察が短時間のものでも、JICE スタッフのおかげで国や人々の特徴を理解することができました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 受入団体

アルゼンチンの日系の若者からは、もっと時間を共有したかった！との意見が多かったようです。とても貴重な経験になり感謝申し上げます。

◆ 学校交流校

日本のみなさんから東京での過ごし方、お祭りや温泉、和菓子などについて紹介があり、大変興味深い内容ばかりで、スペイン語と日本語で発表してくださってとても良かったです。こちらからはアルゼンチンの学生生活、結婚式のお祝いの仕方、ワールドカップ優勝のお祝いについて等の国の紹介を、日本語で一生懸命発表する良い機会となりました。最後は懇親会でいろいろお話できてとても良い交流になりました。

6. 参加者の対外発信、報道記事等

	
<p>2023年3月23日 (Instagram) 参加者広報用アカウント</p>	<p>2023年3月23日 (Instagram) 在アルゼンチン日本国大使館 山内大使</p>

皆さんこんにちは。

(1日目)

今日はアルゼンチンにある日本国大使公邸を訪問しました！

なんと、アルゼンチンにいる日系移民の7割以上は沖縄の方だとされています。

また、アルゼンチンでは日本人への信頼度が非常に高いです。それは、長期に渡り日系人の方がアルゼンチン社会に貢献し、評判を築いてくれたからなのです！

※日系人って何だろうと思う人へ。

日本以外の国の国籍または永住権を取得している日本人及びその子孫のことを指します！

ようこそ！

本日、日本の外務省の Juntos!!事業でアルゼンチンに初めて訪れた日本学生の派遣団が、大使公邸に来てくれました。

派遣団は、これからブエノスアイレスを周り、日系コミュニティとの交流を通して、相互理解を深めます。

新しい経験に満ちた素晴らしい滞在になるようお祈りいたします。



2023年3月23日 (Instagram) 日本人大学生アルゼンチン産業の生産性向上のために、JICAとアルゼンチン国家生産性発展省、外務省とINTIが二国間協定に基づきカイゼンタンゴプロジェクトを行っています。その実施場所であるINTI (アルゼンチン国立工業技術院) を訪問しました。

2023年3月24日 (Instagram) 参加者広報用アカウント

(2日目)

沖縄県人連合会 (COA) の方々と合流をしました！

日系アルゼンチン方のうち、およそ7割から8割が沖縄県にルーツを持っています。

県人会では、三線やエイサーと言ったら沖縄文化を継承するために、教室を開いています。

私達のメンバーの1人が沖縄県出身ですが、彼女は「今の沖縄よりもずっと沖縄らしい」と言っていました。

遠く離れたアルゼンチンには、古くから日本との繋がりがありました。

その地で生きてきた日系の方が、信頼を築いてきたおかげで、今のアルゼンチンには、日

系社会および日本人に対するリスペクトの心がある事を実感した一日でした。



2023年3月24日（Facebook）在アルゼンチン  
沖縄県人連合会

アルゼンチンの日系社会及び沖縄移民について興味のある大学生 10 名からなるプログラム Juntos!!のグループを受け入れました。当団体の若者（COA 青年部、バレラ、サルミエント）RKMD、沖竜海、琉球サブカイ、ノムラ・リュウと交流会を企画しました。更に、サッカー選手のイチカ・エガシラさんも日系のフットサルチームと共に来てくれました。COA から皆さんにアルゼンチンにおける沖縄移民についての日本語の書籍を贈呈しました。皆でチョリパンやサンドイッチを食べ、若者達の交流はにぎやかに行われました。

2023年3月25日（Instagram）日亜学院  
日本の大学生が日亜学院を訪問しました。

Juntos!!は日本人のアルゼンチンに関する知識を深め、交流を促進することで両国の相互理解を深めることを目的として日本国の外務省が実施するプログラムです。プログラムの活動枠組みの中で、大学生 10 名と日本から同行したコーディネーター 2 名が土曜日に日亜学院を訪問、学院関係者と中高等部の学生が受け入れを行いました。訪問中、アルゼンチン人学生と日本人学生はそれぞれの国や特徴、習慣についてプレゼンテーションを行い、様々な祝祭日や行事、お祭りについて話しました。また、それぞれの国の観光や大学、学習・研究の方法論についても話し合いました。（後略）



2023年3月25日（Instagram）参加者広報用ア  
カウント

2023年4月1日（ブログ）日本人大学院生  
（中略）

日亜学院訪問後、ESMA に行ってきました。  
ESMA は、元は海軍の訓練学校として機能して  
いましたが、1976 年から強制収容所としても使  
用され始め、多くの人々(主に若者が)そこで「失  
踪」しました。

彼らはどのように「失踪」したのでしょうか？ガ  
イドの方の話によると、ESMA にて拷問や尋問  
を受けた人々は、別の収容所に飛行機で輸送さ  
れると説明を受け、飛行機に乗せられました。そ  
して、彼らはそこで睡眠薬で眠らされ、そのまま  
広大なラプラタ川やその先の海へと投げ捨てら  
れていたそうです。このようにして大量の人々  
が「失踪」したと言われています。

また、当時 ESMA にいた妊婦達は子供が産まれ  
ると殺され、その産まれた子は当時の軍部の主  
要な人物達の家に養子として受け入れられてい  
たのです。(もちろんその子供達は、母親が殺  
されたことなど知らず、養子先の家族を本当の  
家族だと信じ込んでいたそうです。)ところが、  
「5月の母」の運動等が盛んになり、遺伝子検査  
などで、ESMA で産まれた多くの子供達の身元  
が判明することになります。

ある日突然「あなたの家族は本当の家族ではな  
く、本当の母親を殺した奴らの仲間なんだ」とい  
う事実を突きつけられた人達は、想像を絶する  
ショックを受けたことでしょう。

私たちは ESMA を通じて、改めて人間の残酷さ  
や当時のアルゼンチンの独裁政権下の状況につ  
いて学び、深く考える機会を得ました。日本では  
あまり当時のアルゼンチンの惨事は知られてい  
ませんが、アルゼンチンを含む他のラテンアメ  
リカについて、もう一度学び直さなければいけ  
ないと感じました。

プログラムに参加して印象に残っていることは  
何点かあります。

まず、日系社会の面白さ(興味深さ)です。  
これはテーマのところで詳しく書きます。  
なにはともあれ、一緒に多くの会話を交わし、  
とても深い絆ができました。なんて素晴らしい  
ことでしょうか。

次に、日本のエッセンス・独自性について考え  
させられました。日系コミュニティや日本語学  
校では、「日本文化」の教育が行われていまし  
た。

文化とは、人々によって維持されてきた生活の  
痕跡です。文字や言葉によって主に残される点  
で、文字化されたもので文化って解釈もできる  
な一とか思ったりしています。

私は伝統主義(古いものならば良い)という考  
え方には立ちません。一方、私が内面化してき  
た日本文化についてより理解を深め、自分の中  
身に対して考えをもつのは良いことかなと思い  
ました。

最後に、対話の重要性です。

今回のプログラムでは、様々なバックグラウン  
ドと価値観を持つ 10 人の大学生(大学院生は  
私だけ泣)が参加しました。彼・彼女らと本当  
に多くの話をしました。歴史や文化に対する考  
えや、将来に対する思いなど。話すことで、本  
当に思考が下に降りていくのを身体で感じまし  
た。(後略)



2023年4月2日（Instagram）日本人大学生類い稀なる経験と才能を持った人との出会いに恵まれて、本当に濃密な5日間でした！！アルゼンチン大使の方に、「アルゼンチンはつかみどころのない国」と聞きましたが、振り返ると、本当に多様な民族が共存している国だと思います。もっと調べなくては…！スペイン語の楽しい雰囲気、スペイン語勉強したい、という気持ちが高まりました！アメリカ留学中にぜひラテンアメリカの国々にまた行きたいと思います。

2023年4月2日（Instagram）日本人大学生アルゼンチン渡航  
 知れば知るほど、面白い国  
 - 人が気さくで温かい  
 - 軍事政権の傷跡が見える  
 - 教育熱心（政権ごとに先生は総入れ替え…）  
 - 日本との歴史的な結びつき  
 スペイン語を使いこなすみんなには脱帽だったなあ  
 現地の言葉だからこそ開ける扉もあると実感！次は旅人として戻って来よう。  
 出会えたみんな、Mucho gusto！

## 7. 報告会でのアクション・プラン発表（抜粋）

### 日系社会への理解促進と青年交流 ①

4つの点で、学びがありました

この4つの分類に沿って、まずは学んだことを報告します

日本との関係  
 日系社会

文化  
 歴史・社会

恐怖政治と若者②

→アルゼンチンの若者は、以前から政治と関わりが強い

- 恐怖政治の当時から、子どもたちは放課後コミュニティで社会をより良くする方法を話し合う
- 今も、大学生向けの、政治団体と連携した学生団体が多く存在し、プレゼンスがある
- 若者は全体的に強い政治への関心

強い影響

目標した若者の青年行進は、とても熱気を帯びました

アルゼンチンの文化：国民性・気質

人と人との深い関係が重要：仕事上

日本ではビジネスで顔対面、名刺を交換してすぐに仕事を一掃に始める。

一方で、アルゼンチンでは、まずは食卓を囲って食事をしながら「村さしい人である」と感じたら、初めて名刺を交換する。

→会社単位ではなく、**人単位**で信頼関係を築く

### ■ プログラム中に学んだこと

- 産業における日本との関係：5S やカイゼンを通じた業務効率化、新品種開発、千葉大学からの技術支援を学びました。
- 日系社会について：日系人への評価が高いこと、70%が沖縄出身ということを知りました。そして日亜学院等から非日系人へ日本文化が広がりを見せているという現状も学びました。
- 文化について：アルゼンチンに日本語学校があり日本のアニメや漫画が人気だということを知りました。アルゼンチンの食文化や、個人単位の国民性、気質、距離感の近さ、インフレの影響、経済状況についても学びました。
- 歴史・社会について：恐怖政治と若者の拉致について学びました。

## ■ アクション・プラン

対日関係、日系社会、文化、社会・歴史についてのアクション・プランを各自が行います。

- ・ メンバー A：日系社会の中の継承語教育に興味があるため、大学周辺の日系人の為のスペイン語教室においてフィールドワークを実施したり、日系社会の継承語教育についてSNS発信を行ったりします。
- ・ メンバー B：アルゼンチンで日本の文化が多くの人に愛されている状況を広めます。日亜学院での活動をSNSで発信し、自分のラジオにゲストとして日系人を招きます。
- ・ メンバー C：アルゼンチンの衛生環境や健康、社会保障に興味があるため、アルゼンチンの現状を発信し、大学で中南米研究を行います。アルゼンチンの友人とのコンタクトを維持し続けます。
- ・ メンバー D：アルゼンチンの経済状況に関心があるため、研究会でのテーマをアルゼンチン経済とします。政策について友人達と議論したいと思います。
- ・ メンバー E：日系人のアイデンティティと恐怖政治に興味があるため、世界中の日系人について調べ発信します。アルゼンチンの政治について友人と話し、日本の政治課題について議論します。

以上、5人がそれぞれのアクション・プランを実行することにより、若者の興味を喚起します。

## 日系社会への理解促進と青年交流 ②



## ■ プログラム中に学んだこと

- ・ 日系団体との交流を通して、日本の文化が日本以上に日系人には浸透していること、ただ世代が変わるにつれて日本語の維持は難しく、距離的にも経済的にも日本に簡単に行けない状況だということを知りました。
- ・ 滞在中に、まだ日本に届いていないアルゼンチンの日系の魅力や日本とアルゼンチンの文化の融合を意図した活動（ハカラナダを見るお花見、ハカラミ）について知ることができました。
- ・ アルゼンチン人とより仲良くなるためには、アルゼンチンでも友好の印であるマテ茶をシェアして飲むことや、ハグや頬へのキスなどの挨拶は積極的に日本人も取り入れていくべきだと思いました。

上記のアルゼンチンの魅力や学んだことについてSNSなどで発信するだけでなく、メンバー各々が日常生活の中で周りの人に伝えていきたいと考えています。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）